

国際学会 21st European Conference on Pattern Languages of Programs (EuroPLoP 2016)における「Cooking Life Patterns: A Pattern Language for Enjoying Cooking In Everyday Life」の  
論文発表

環境情報学部 2年 吉川文夏

1. 活動日程・場所

7月3日～7月11日 Bavaria, Germany

2. 活動の目的

本研究では生活に料理を取り入れて暮らしをより豊かにするための秘訣を言語化することを目的とし、「Cooking Life Patterns」を作成した。今回の活動ではその成果をまとめた論文「Cooking Life Patterns: A Pattern Language for Cooking in Everyday Life」(Ayaka Yoshikawa, Yuma Akado, Shiori Shibata, and Takashi Iba)を、ドイツで開催されるパターン・ランゲージの国際学会 21st European Conference on Pattern Languages of Programs (EuroPLoP 2016)にて発表した。

3. 研究の成果

今回の活動を通じ、以下のような成果を得ることができた。

まずは、パターン・ランゲージの国際学会で発表することにより本研究をパターン・ランゲージの学術研究として国際的に位置づけすることができた。本学会では世界中からのコンピューターサイエンスや教育の分野の研究者が集まっていたため、本研究がより広い範囲に認知されることができた。また、本研究はパターン・ランゲージで日々の創造的な行為のデザインをするという新たな可能性を提案したものであったため、パターンのコミュニティからはパターンをレシピとしてではなくより身近な場での創造性を支援する事例として関心を寄せていただくことができた。学会の中心であるライターズ・ワークショップ(論文について他の参加者からフィードバックを頂くワークショップ)では本論文で取り上げた「Cooking Life Patterns」の構成や内容についてたくさんのフィードバックを頂くことができ、論文及び「Cooking Life Patterns」の改善点が明確になった。

自身の論文発表の他にも、他参加者の論文やプレゼンテーションへのフィードバックをするワークショップに参加したり、パターン・ランゲージを使ってゲームをデザインするワークショップに参加したりした。また、本学会では他参加者と密に議論する機会が多くあったため、パターン・ランゲージに対する理解をより深めることができた。さらに、他参加者との交流を通して他分野の研究者からも本研究へ興味を示していただくことができ、「料理のパ

ターン・ランゲージ」の可能性を示すことができた。



学会の「ライターズ・ワークショップ」の様子

#### 4. 今後の発展

今回の論文で取り上げた「Cooking Life Patterns」を出版に向けて準備を進める。本学会で得たフィードバックを元に修正をし、来年の春に出版をすることを目指す。

また、本学会で発表した論文もウェブで公開するために、修正を進めている。今までの研究で行ってきた料理のパターン・ランゲージとの関係も書き加え、それらのパターンも全て論文の中に集録する予定である。

#### 5. 謝辞

ご指導いただいた井庭崇先生をはじめ、「Cooking Life Patterns」及び論文「Cooking Life Patterns: A Pattern Language for Cooking in Everyday Life」の作成にご協力いただいた皆様、そして学会への参加にあたり助成金をいただいた湘南藤沢学会様に心よりお礼申し上げます。